

21 タブラオ フラメンコの楽しみ方 1

タブラオはフラメンコのライブを見ることができるお店。フラメンコとの出会いがタブラオだったという人も多いのではないのでしょうか。ほぼ年中無休で、いつでも誰でも気軽にフラメンコを楽しむことができるお店、それがタブラオです。

劇場のように座席だけ並んでいるところがあれば、テーブルがあって飲み物や食事も楽しめるところもあります。観光バスが次々にやってくる大型店があれば、団体客を取らないマイクも使わない小さな店もあり、世界中の大劇場に立ってきたすごいアーティストが出演していることもあれば、新人中心の店もある、といった具合です。

タブラオの歴史

タブラオは、誰もが手軽にフラメンコを楽しめるようにと生まれました。1954年に開店した、今はなき『サンブラ』がマドリードで最初のタブラオといわれています。『サンブラ』にはギタリスト、ペリーコ・デル・ルナルと彼が編んだアンソロジーに参加したラファエル・ロメーロら、いぶし銀の歌手手たちが数多く出演していました。当時は、伝統的なフラメンコを見たいと思ったら、個人的にアーティストを呼んで宴を行うしか手立てがなく、お金持ちなど特権階級だけしかフラメンコのライブを楽しむことはできなかったのです。そのため、この時期に様々な動きが起きました。1949年には最初のペーニャが生まれ、1957年には最初のフラメンコ祭が始まっています。

また、内戦から復興し、国としても観光に力を入れはじめ、その目玉のひとつとしてフラメンコやフラメンコを見せる店タブラオに目をつけます。

Cortijo El Guajiro 1953年
セビージャはトリアーナにあったグアヒーロはマティルデ・コラル(写真前列中央)など多くの名舞踏家が出演していた。闘牛士や軍人が多く訪れたといえます。



1956年にはコラル・デ・ラ・モレリアが開店し、他にも10軒以上のタブラオが1960年代のマドリードに生まれています。また、マドリードやセビージャだけでなく、バルセロナやカディス、マラガなど全国にも広がり、果てはニューヨークやパリ、東京にもタブラオが開店しました。

タブラオの役割

タブラオはフラメンコを支える柱です。アーティストの生活を経済的に支えるというだけでなく、多くの人に見てもらおうことで普及させる役割も持っ

ています。さらにアーティストたちは毎日、舞台に立ち、お客さんの前で歌い踊り、演奏することで、その技術を、アルテを磨いていきます。1950年代以降に活躍しているほとんどすべてのアーティストたちは、一度はタブラオの舞台に立っている、と言ってもいいでしょう。現代フラメンコの基盤となったカマロン・デ・ラ・イスラやフラメンコ舞踊を舞台芸術として高めた踊り手アントニオ・ガデスもそうです。「タブラオはフラメンコの大学」といわれるのも、教室や自習で学んできたことをベースに、そこでしか学べないフラメンコを学ぶことができるからでしょ



セビージャのパティオで行われる、踊り手二人(写真はラファエル&アデラ・カンパージョ)にギターと歌という小さな公演は上演時間も1時間くらい、入場料も手軽です。旧Casa de la Memoria



©Kyoko Shikaze

ビジャロサで踊る梶山彩沙 2018年8月
居酒屋からタブラオとなり、その後、セビジャーナスバル、ディスコなどを経て再びタブラオとなったビジャロサ。コンクール優勝のご褒美で梶山も踊りました。

う。即席のメンバーで観客の前に立つことも多く、フラメンコの即興性を鍛えられる場でもあります。

タブラオの楽しみ

タブラオの魅力は、いつでも手軽に観ることができることと、舞台と客席の近さでしょう。ここ数年、フラメンコを見せる店は、観光客の増加に伴い増加傾向にありました。また伝統的なタブラオのようにたくさんのアーティストたちが2時間近いショーをみせる店よりも、踊り手にギターと歌の3、4人のみの出演で1時間のショーという気軽に楽しめる店も多くなりました。

なお、ショーのクオリティは出演者に左右されるところが大きいので、店

のホームページで出演アーティストを確認するといいでしょ。表示通りでないこともままあるので、電話でお店に確認するのが確実です。

観光客のいかないタブラオ

よく「観光客の行かないタブラオを教えてください」と言われるのですが、そういう店はありません。タブラオの観客は80%以上は外国人だといえます。入場料が一般のスペイン人にとっては安くはないということもありますが、タブラオのフラメンコは外国人のための二流であるという誤解もあるかと思います。実際は、劇場で活躍する一流のアーティストが出演していることも多く、観光客向け=悪い物、

では全くありません。気軽に最高のフラメンコを楽しめるタブラオに、スペインでも日本でも、ぜひ足を運んでください。



2004年のシカゼ
セビージャ県アラアルのフェスティバルに出演した同年のヘラルドとツーショット。

志風恭子 / 1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。